

## 5. 学生の受け入れ

## 中期目標

- 【目標1】学生の受け入れ方針を明示し、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づいた人材育成の成果と比較・検証することで、これを適切に維持する。
- 【目標2】適切な定員を設定して学生を受け入れるとともに、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均並びに、収容定員に対する在籍学生比率の平均を1.00とする。

## (1) 広報入試委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 当該学科に入学するにあたり、求める学生像及び修得しておくべき知識等を事前に明示する。		[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開	
[1-2] それぞれの入試制度に基づいた選抜方法を明示するとともに、選考方法、出題内容、合否判定が適切かどうかを検証し、適正化を図る。		[1-3] ① 学生満足度調査(2015年度)→各奨学金対象者調査(2016年度) ② 卒業生満足度調査(2015年度)→各奨学金対象者調査(2016年度) ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況(業種別等を含む) ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・4年間卒業率 ⑦成績優秀者奨学金該当者等成績一覧	
[1-3] それぞれの入試制度並びに成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した入学生の学修成果について検証・評価する。			
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッションポリシー等は、入試ガイド、AOガイド、HP等に年度当初から明示し、受験前に十分理解させるよう周知する。	[1-1] 求める学生像及び修得しておくべき知識等について事前に明示し、十分理解させるよう事前に周知した。	[1-1] 求める学生像及び修得しておくべき知識等について十分理解させるよう、入試ガイド、ホームページでの公開を行った。→【指標1-1】
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、AOガイド、HP、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、AOガイド、HP、入試要項等に明示したが、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうかは検証・評価はできていない。奨学金対象者の情報のみ、関係部署と連携して報告したのみである。	[1-2] 入試要項、ホームページでの公開を行ったが、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうかは検証・評価はできていない。よって次年度は、入学後の成績・学籍状況を調査した結果を、それぞれの制度における判定が適切かどうかという検証・評価を行いたい。 →【指標1-2①②③④】
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の情報を学内で共有し、入学後の状況について関係部署と連携して調査・指導する体制を整える。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した学生の情報を、関係部署と連携して情報共有を行った。	[1-3] 上記指標については、今年度実施できていないものもあり、次年度に向けて今一度検討する余地がある。なお、成績優秀者奨学金該当者等成績一覧については、関係部署と連携して調査・指導する体制を整えた。よって次年度は、入試制度の考課査定として教学IRプロジェクトを活用し、評価指標としたい。 →【指標1-3】
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 高大接続システム改革に伴い、三つの方針の一体的策定と、それらに基づく教学マネジメントを推進。その一つであるアドミッションポリシーの策定、見直しを年度内にすすめる。		
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、AOガイド、HP、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。		
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を可視化する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適正化を検証する。		[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率	
[2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に対する対策を検討する。		[2-3] ①合格最低点、得点率、手続者数一覧 ②年度別入学者の平均点一覧 ③年度別休退除籍者数一覧 ④各学科修学指導対象者一覧	
[2-3] 各学部の合否基準を明確にし、一定の学力・意欲・適応力のレベルを保ちつつ、偏差値を意識しながら、中期的に安定した定員充足が出来るような学生募集方法を検討し、その成果を検証する。			
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 2016年度入学者600名、2017年度入学者700名、2018年度入学者800名を目標として、今後3年間で安定的な定員が確保出来るよう様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。	[2-1] 今後3年間で安定的な定員が確保出来るよう入試広報活動を推進した。	[2-1] 2016年度の入学者600名を目指すべくすすめてきたが、結果539名となり目標を達成できなかった。入試広報活動を推進するだけではこの溝を埋めることは難しく、他部署との連携を強め目標1で掲げた受け入れた学生の成果と比較・検証を次年度しっかりすすめていくことを前提とし、さらな

<p><b>[2-2]</b>                  ①広報課と連携して、大学の認知度を上げるための広報を強化する。                  ②オープンキャンパスの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図る。                  ③大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図る。                  ④大学説明会の参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図る。                  ⑤入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、HPなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携して制作する。                  ⑥直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び入試委員と連携して、可能な限り参加する。                  ⑦入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化する。                  ⑧高大連携プログラムを充実させ、出張講義、大学説明、大学見学等のメニューを紹介する冊子を作成し、送付及び高校訪問等でPRする。                  ⑨資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果見ながら広報媒体を見直す。</p>	<p><b>[2-2]</b>                  ①広報入試課となったこともあり、大学広報、入試広報を棲み分けしそれぞれ強化できた。                  ②オープンキャンパスの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図った。                  ③大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図った。                  ④大学説明会の参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図った。                  ⑤入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、HPなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携して制作した。                  ⑥直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び入試委員と連携して、可能な限り参加した。                  ⑦広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。                  ⑧高大連携プログラムを充実させ、出張講義、大学説明、大学見学等のメニューを紹介する冊子を作成し、送付及び高校訪問等でPRした。                  ⑨資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果見ながら広報媒体を見直した。</p>	<p>る検証・評価を進めたい。→【指標 2-1】  <b>[2-2]</b>                  ①事務組織改革により広報入試課となり、大学広報、入試広報とを棲み分けしそれぞれを強化。また、広報との連携を図ることができた。→【指標なし】                  ②オープンキャンパスの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、参加者数が大幅に増えることはなかった。→【指標 2-2①】                  ③大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、参加者数が大幅に増えることはなかった。→【指標 2-2①】                  ④大学説明会の参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、参加者数は半減した。次年度は形を変え広報手段の見直しも図りたい。→【指標 2-2①】                  ⑤入学案内(30,000部)、入試ガイド(20,000部)、支援力レポート(10,000部)、学科チラシ、HPなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、制作を強化した。なお、今年度は学科パンフレットの予算が認められず学科チラシを学内印刷で対応した。手間がかかり効率が悪い状況であった事や、高校生が冊子形態になっている方が目に留まりやすい事などが確認できた。ちなみに、次年度は学科パンフレットの予算が認められている。→【指標 2-2②】                  ⑥直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び入試委員との連携、また、広報入試課の人員も増員したことから、今まで参加出来なかった地域にも力を入れ、可能な限り参加した。→【指標 2-2①】                  ⑦広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問をさらに強化した。→【指標 2-2①】                  ⑧高大連携プログラムを充実させ、出張講義、大学説明、大学見学等のメニューを紹介する冊子を作成し、送付及び高校訪問等でPRした。→【指標 2-2①】                  ⑨資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら、年度の途中でも広報媒体の見直しを図った。→【指標 2-2③】</p>
<p><b>[2-3]</b>                  ①AO入試の実施方法について見直し、再検討する。                  ②自己推薦の全学部実施について再検討する。                  ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生部と協議する。                  ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討する。                  ⑤成績優秀者奨学金の拡充について検討する。                  ⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充を検討する。また、スポーツクラブ(特に女子)の強化・拡充について学生部と協議する。                  ⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報する。</p>	<p><b>[2-3]</b>                  ①AO入試の実施方法について見直し、再検討した。                  ②自己推薦の全学部実施について再検討した。                  ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生部と協議した。                  ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討した。                  ⑤成績優秀者奨学金の拡充について検討した。                  ⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充を検討した。また、スポーツクラブ(特に女子)の強化・拡充について学生部と協議した。                  ⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報した。</p>	<p><b>[2-3]</b>                  ①AO入試の実施方法については臨床心理学科のみで実施していたABO方式をA方式にまとめて実施したが、エントリー数等に特段影響は出なかった。→【指標 2-3①②③⑥⑦】                  ②自己推薦の全学部実施について再検討したが、AO入試との棲み分けの問題もあり、次年度については見送ることとなった。→【指標 2-3①②③⑥⑦】                  ③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生支援課と協議し、次年度に向けて2クラブ追加及び1クラブ削除とすることとした。→【指標 2-3①②③⑥⑦】                  ④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討したが、次年度は今年度同様とする事とした。→【指標 2-3①②③⑥⑦】                  ⑤成績優秀者奨学金の拡充について検</p>

5. 学生の受け入れ

			<p>討したが、次年度は今年度同様とする事とし、今までの成績優秀者については、関係部署と連携し、在学中の成績について情報を共有した。</p> <p style="text-align: right;">→ 【指標 2-3④】</p> <p>⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充については、完成年度3年目を迎えた後検討することとした。また、スポーツクラブ（特に女子）の強化・拡充について学生支援課と協議し、次年度に向けて追加することとした。 → 【指標 1-3 共通】</p> <p>⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報し、利用率は昨年より微増となった。特に出願時期が遅い入試制度に関しては利用率が50%を越える結果となった。次年度に向けてはさらなる利用率アップを目指し、スマートフォン対応にすべく進めたい。 → 【指標 2-3⑤】</p>
2016年度	<b>年次計画内容</b>		
	<p>[2-1] 2017年度入学者600名、2018年度入学者650名、2019年度入学者700名を目標として、今後3年間で安定的な定員が確保出来るよう様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。</p>		
	<p>[2-2]</p> <p>①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。</p> <p>②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。</p> <p>③入学案内、入試ガイド、支援レポート、学科パンフレット、HPなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう制作する。</p> <p>④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。</p> <p>⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化する。</p> <p>⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図る。</p> <p>⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。</p>		
	<p>[2-3] 全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直し、検討する。</p> <p>①AO入試の実施方法について見直し、再検討する。</p> <p>②自己推薦の全学部実施について再検討する。</p> <p>③公募制指定スポーツクラブの拡充について学生部と協議する。</p> <p>④一般入試の受験科目数及び出題科目について再検討する。</p> <p>⑤成績優秀者奨学金の周知及び拡充について検討する。</p> <p>⑥特別強化クラブの特待選手人数及び免除内容の拡充を検討する。また、スポーツクラブ（特に女子）の強化・拡充について学生部と協議する。</p> <p>⑦インターネット出願の利便性、経済性について引き続き広報する。</p>		

(2) アクセシビリティ推進委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	<p>[1-1] 障がいのある学生の受け入れ方針を示す。</p> <p>[1-2] 障がいのある学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。</p>		<p>[1-1]</p> <p>①入試要項、ホームページでの公開</p> <p>[1-2]</p> <p>①GPA ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④学位授与率・4年間卒業率</p>
2015年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	<p>[1-1] 障がいのある学生の受け入れ方針及びその示し方について検討する。</p>	<p>[1-1] アクセシビリティ推進委員会のなかにワーキンググループを設置し、「札幌学院大学障がい学生の受け入れ及び支援に関する基本方針」の改定案の検討を行った。また、『聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック』を、学生の協力の下で制作し、発行した。(2015年9月24日発行) 受け入れ及び支援に関する基本方針の外部への示し方については、十分には進んでいない。</p>	<p>[1-1]</p> <p>資料：入試要項 資料：「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」 資料：本学ホームページ「障がい学生支援」</p>
	<p>[1-2] 障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。</p>	<p>[1-2] 成績確定後（前期・後期の2回）に、アクセシビリティ推進委員会の会議において、障がいのある学生の学業成績（GPA、単位修得状況）の情報を確認し、関係各所と状況共有するとともに、必要な支援を行った。</p>	<p>[1-2]</p> <p>① GPA ② 進路決定状況（業種別等を含む） ③ 資格等取得状況 ④学位授与率・4年間卒業率</p>
2016年度	<b>年次計画内容</b>		

年度	[1-1] (1)「札幌学院大学障がい学生の受け入れ及び支援に関する基本方針」の改定に伴い、学内外への周知について検討する。 (2)「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の施行に伴い、本学の支援内容等をまとめた「障がい学生支援紹介パンフレット」を発行する。
	[1-2] 障がいのある学生の学業成績(GPA、資格取得状況など)の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。

**(3) 経営学部**

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を入試要項、ホームページなどで明示する。 [1-2] 障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。その際、単位取得、GPA、進路決定状況など具体的な数値によって検証する。		[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況(業種別等を含む) ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・4年間卒業率
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] もとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	それぞれ明示した。	公開を行なった。
	[1-2] 障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	示すことが出来なかった。	公開することが出来なかった。
	[1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。	教務委員会において検証を行なった。	学科ごと、専攻ごと、ゼミごとに個別に指導できるデータを提供した。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] もとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。		
	[1-2] 障がいのある学生の受け入れ方針を示す。		
	[1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して、会計ファイナンス学科の定員を2014年度から削減したが、さらに経営学科も含め大学執行部、理事会などと連携をとりながら対応を行う。		[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性について検証を開始する。	教務委員会において検証を行なっている。	目標は達成できていないが今後改善を図っていく。
	[2-2] 学部全体の定員についての対応を開始する。	学部の在り方の検討を開始した。	更なる検討が必要である。
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。		
	[2-2] 学部全体の定員についての検討を続ける。		

**(4) 経済学部**

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 求める学生像および、経済学部の教育内容を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を検証する。 [1-3] AO入試や推薦入学入試制度の検証を継続し、入試手段別に入学者学生の現況を把握する。 [1-4] 指定高校などの高大連携を図り、初年次学生の基礎力の担保を推進する。		[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①修学ポートフォリオ提出状況(2016年度) [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況(業種別等を含む) ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-4]①高校巡回実施状況(2016年度)
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 経済学部ホームページにおいて求める学生像および、経済学部の教育内容を更新する。	次年度の課題である。	求める学生像および、経済学部の教育内容の明示は完了していない。次年度更新する。AO入試の課題は経済学部ホームページで公開した。
	[1-2] 1)修学ポートフォリオを用いて学生自身で成長を確認させる。 2)学生の成長を確認できるポートフォリオの改訂を検討する。	1)1,2年生に対して修学指導を実施した。 2)修学ポートフォリオについて、学習効果を向上するため、書式を変更し、実施した。	学生の成長を支援する施策は実施したが、受け入れた学生の成長を検証することは未完全である。
	[1-3] 入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注点を探る。	昨年度入試手段別の成績および学籍異動の基礎資料の作成はしたが、さらなる分析は行っていない。次年度の課題である。	入試手段別に入学者学生の現況をしっかりととらえるところまでは至っていない。

5. 学生の受け入れ

	[1-4] 1)入学前学習の状況を高校に説明する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、情報を共有する。	1)入学前学習の結果を高校に送付するとともに、高校巡回で説明した。 2)在学生の状況を把握するため、はぐくみへの記入を促した。	指定高校などの高大連携は具体的には検討していない。しかし、初年次学生の基礎力の担保を推進するよう、努めた。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 経済学部ホームページにおいて求める学生像および、経済学部の教育内容を更新する。		
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。		
	[1-3] 入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。		
	[1-4] 1)入学前学習の状況を高校に説明する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	[2-1,2-2 共通]	
[2-2]	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する検討を行う。	①入学定員充足率 ②収容定員充足率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 定員の確保に努力する。過去5年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。	重点化すべき入試対策は検討したものの、対策案をまとめることはできなかった。高校巡回を密に行うことにより志願者を増やすことができた。	①入学定員充足率は62%と前年度に比べて高くなっているが、これは入学定員を150名と減らしたためである。当面は80%台を目標にしたい。特に、一般入試の充足率が低いため、これを高めるような入試広報を行いたい。 ②収容定員充足率も62%となっている、これもさらに高くなるよう努めたい。
	[2-2] 入試制度の検討を昨年度に続き行う。	指定校推薦の基準を変更した。また、大学全体の制度改革が整うまで大きな制度変更は行わないこととした。	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する問題意識は共有しているが、具体的な検討は行っていない。入試の大きな制度変更は行っていない。
2016年度	年次計画内容		
	[2-1]	定員の確保に努力する。過去5年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。	
	[2-2]	入試制度の検討を昨年度に続き行う。	

(5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	[1-1,1-2 共通]	入試要項、ホームページでの公開
[1-2]	アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	[1-3]	①学修行動調査 ②学生満足度調査の活用 ③卒業生満足度調査の活用 ④入学年度別GPA分布・推移 ⑤進路決定状況(業種別等を含む) ⑥資格等取得状況 ⑦入学年度別学位授与率
[1-3]	学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。		
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AOガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。	もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AOガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知した。	学科教員による出張講義を5回実施した。進学相談会・構内ガイダンスにおける対応件数が239件、大学進学セミナーにおける対応件数が5件、4回のオープンキャンパスにおける対応件数(希望学科として本学科を選んだ件数)が198件であった。また、学科教員が8つの高校を訪問した。 【指標なし】
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針の示し方について、アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに検討する。	アクセシビリティ推進委員会では、大学全体としての障がいのある学生の受け入れ方針をホームページ上で示しているところである。学科としての受け入れ方針の示し方は検討していないが、基本的に大学全体の受け入れ方針にしたがって適切に実施している。	学科独自の方針は示していないが、大学としての受け入れ方針をホームページで公開している。 【指標 本学HP掲載内容】
[1-3] 学修行動調査のデータから学生の学修成果について検証を行う。	2014年度の学修行動調査を資料に入学後半年後の評定平均値の調査を実施した。	今年度は上記[1-1][1-2]による「明示」と「学修成果の検証」を行った。今後は明示している学生受け入れ方針と入学後の「学修成果」の関連	



			性を検証し、これを適切に維持する方法を検討する必要がある。 【指標「2014年度「学生による授業評価アンケート」の結果分析(2015/6/12)」※6月教務委員会資料】
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AOガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。		
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、2016年度に改定した「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。		
	[1-3] 達成度評価指標のいずれかを用いて、受け入れた学生や卒業生の学修成果について検証を行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	[2-1,2-2 共通]	
[2-2]	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。	①入学定員充足率 ②収容定員充足率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	収容定員 520 人 (130 人×4 学年) に対して、2011 年度から 2015 年度までの在籍学生比率を把握した。	2011 年度から 2015 年度までの収容定員充足率(②)の推移は、1.06、0.98、0.95、0.86、0.76。 【指標②収容定員充足率】
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。	定員確保を目標として、広報・入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を積極的に伝えた。	目標の達成にはいたらなかった。2011 年からの 2015 年度までの入学定員充足率(①)の推移は、1.00、0.95、0.88、0.65、0.56。 【指標①入学定員充足率】
2016年度	年次計画内容		
	[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	
	[2-2]	定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。	

## (6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標	
[1-1]	求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	[1-1]	入試要項、ホームページでの公開
[1-2]	学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。	[1-2]	①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 入試要項やホームページ(大学全体のものと学科独自のもの)ですでに公開されているアドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス、大学外での相談会などの場を活用する。	年度内で 5 回実施されるオープンキャンパスの学科説明や個別相談の時間や、学外での相談会のブースにて、アドミッション・ポリシーの周知を徹底した。英語関連の出前講義やミニ講義でも、部分的にアドミッション・ポリシーに言及するなどの工夫も行った。	入試要項、ホームページでの公開を行なった。 【指標「大学ウェブサイト」】
	[1-2] GPAの推移や資格取得状況などのデータから、学生の成長を可視化するとともに、学生の成長を継続的に支援する仕組みを検証する。	4年生に関して、TOEIC のスコアの推移・留学状況・国際交流活動参加状況・進路決定状況のデータ一覧を作成し、学科会議で情報共有を行った。	今年度は、4年生について学びの成長を確認できた。学びの継続的な支援の仕組みの議論は次年度以降行いたい。 【指標「TOEIC スコア推移・国際交流活動状況・進路内定先」】
2016年度	年次計画内容		
	[1-1]	アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会などの場を活用する。	
	[1-2]	4年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を継続的に支援する仕組みについての検討を進める。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	[2-1]	
[2-2]	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。	② 入学定員充足率	
[2-3]	魅力的な対外広報を行なう。	① 収容定員充足率	
		[2-2]オープンキャンパス・大学相談会参加状況 [2-3]ホームページ・ブログ・入試課で行なうアンケート	
2015	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況

5. 学生の受け入れ

年度	[2-1] 過去5年間(2011年度から2015年度入試)の定員と入学者数を、入試課から入手し、収容定員に対する在学比率を算出する。	広報入試課及び教育支援課の職員から情報を得て、算出した。過去5年間で、4学年全体の収容定員に対する在学比率が1.0を上回った年度はない。しかし、定員の変更(70名から50名へ)と2014年度の定員充足率が1.0を超えたため、在学比率は2015年度で若干の改善を見せている。	算出は行なった。次年度も継続するとともに、定員充足率の上昇に向け、より魅力的な広報の策を練る必要がある。 【指標②】
	[2-2] 過去5年間(2011年度から2015年度入試)を見る限り、本学科が定員を超えたのは2014年度のみであり、恒常的に定員未充足の状態が続いている。まずは、2016年度入試で定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや大学相談会で高校生に、本学科の魅力や雰囲気の良いさをアピールする。	進路指導部訪問だけでなく、本学科のOB・OG教員や知人教員を訪問し、高校教員へのアピールに努めた。オープンキャンパスでは学科のアドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを説明し、かつ、高校生にも理解できる難易度で本学科の学びを体験してもらうコンテンツを用意した。大学相談会も可能な限り入試委員が参加し、高校生へのアピールに努めた。	進学相談会・校内ガイダンス参加者で英語英米文学科に興味を示した人数(広報入試委員会資料による)は、2014年度は229人(全161回)に対し、2015年度は191人(全207回)と若干減少した。しかし、全5回行なったオープンキャンパスの来場者で英語英米文学科に興味を示した人数(広報入試委員会資料による)は、2014年度合計139名に対し、2015年度は161名に増えた。大学が作成した広告等の効果も合わせて、本学科の広報はある程度成功していると現時点では評価できる。最終的な成果は2016年度の入学者数を待たねばならない。 【指標「2015年度相談会集計」】 【指標「2014年度相談会集計」】 【指標「2015年度オープンキャンパス参加者数集計」】
	[2-3] 本学科をアピールする方策として、本学のホームページやブログのコンテンツの整理の検討を開始する。	オープンキャンパスや入試の時期など効果的な時期を狙い、学科ブログへ定期的に記事を掲載した。同時に、更新したブログの記事へのアクセスをさらに促すべく、本学HPの新着情報にもこのブログへつなげる記事を掲載した。今年度はコンテンツの整理には至らなかったが、学科ブログと本学HPの「つながり」を意識し記事を掲載することで、今後のコンテンツ整理のためのポイントが明確になった。一例としては「学科の学生の活発な様子を伝える」もの、「学科の教育内容と魅力をアピールする」ものが挙げられる。	検討の開始は行った。検討内容の反映は来年度の課題となる。 【指標「学科ブログ」】
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 過去5年間(2012年度から2016年度入試)の収容定員に対する在学比率を算出する。		
	[2-2] 過去5年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは2014年度のみであり、恒常的に定員未充足の状態が続く。2017年度入試では定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良いさをアピールする。		
	[2-3] 本学科をアピールする方策として、ホームページやブログのコンテンツの整理の検討を引き続き行う。		

(7) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] アドミッション・ポリシーを刊行物・HPなどで公開する	[1-2] アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ体制を整備する。	[1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。	[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッション・ポリシーについて効果的に周知できるようにHPの内容を検討する。	大学ホームページにてアドミッションポリシーを掲載	実施済み。【指標なし】
	[1-2] アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ体制を整備する。特に2015年度は視覚障害を持つ学生に対する支援の体制を整える。	視覚障害を持つ学生の学習に関し、当該委員会と協議し、講義補助としてのTAの配置・活用を行った。	障害を持つ学生の受け入れについては、わずかであるがそのノウハウを蓄積することができた。【指標なし】
	[1-3] 学生満足度調査、卒業生満足度調査を検討し、学習成果について検証する。	卒業生満足度調査については実施しえなかった。	人材育成結果としての卒業生満足度について、いかなる尺度を用いて把握するか検討している。【指標なし】
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] アドミッション・ポリシーをHPに掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりする。		
	[1-2] アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、配慮事項を徹底させる。		
	[1-3] 入試方法によって、GPAの推移、進路決定状況、資格取状況に違いがあるかを検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	[2-1,2-2 共通]	①入学定員充足率
[2-2]	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。		②収容定員充足率
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	学科会議において随時、入学志願者状況、休退学、除籍に関する情報を管理している。	在籍学生比率は0.91である。 【指標①②】
	[2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応として、2014年度から開始した高校生向けの心理学講座を継続し、あらたな入学希望者層を開拓する。	高校生のための心理学講座 2015 を高校の夏休みに開催したところ、オープンキャンパスに講座受講者が参加した。	高校生のための心理学講座には30名の申込があり、一定の入試広報としての効果があったと思われる。 【指標なし】
2016年度	年次計画内容	[2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応として、2014年度から開始した高校生向けの心理学講座を継続し、入学希望者層を開拓すると同時に、学科知名度を上げるために高校に広報をする。	

## (8) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	こども発達学科がもとめる学生像、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等について、その内容・水準等を明示する。	[1-1、1-2、1-3 共通]	①入試要項、入試関連の広報媒体、ホームページ
[1-2]	障がいのある学生の受け入れ方針を示す		②高校訪問・OP・進学相談会等での実績
[1-3]	修学において支援を要する学生への措置を適切に行う。		③入学前学習
[1-4]	学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長過程を、当該学生の学修成果を基に検証・共有化する。	[1-4]	①学生生活満足度調査
			②卒業予定者への調査
			③入学年度別 GPA 分布・推移
			④進路決定状況(業種別等を含む)
			⑤教員・保育士採用等の採用状況
			⑥入学年度別学位授与率・4年間卒業率
			⑦「はぐくみ」の利用
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示する。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課す。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。もとめる学生像や入学生の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示し、入学予定者に対しては入学前学習を課した。	対処を2/3実施。検証を1/2を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-1:入学生への内容・水準等を明示】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦、AO入学者入学前学習指導」】
	[1-2] 障がいのある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら準備や環境整備に努める。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。軽度難聴学生(1年生)について、当初は特別な配慮は要望しないということであったが、前期末に面談を行った結果、配慮をお願いする必要性を認めたため、アクセシビリティ推進委員会で検討後、授業配慮文書を作成した。本人確認後、後期授業開始時に授業担当者宛に配慮のお願い文書を配布した。	対処を3/3実施。検証を1/2を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-1:障がいのある学生の受け入れ方針】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦、AO入学者入学前学習指導」】 【指標「難聴学生Mさんに対する授業配慮についてのお願い」】
	[1-3] 修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに、適宜関係部署と連携しながら修学支援について検討する。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。修学支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有した。	対処を2/3実施。検証を1/2を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-1:支援を要する学生への措置】 【指標「入学案内」】 【指標②】 【指標「推薦、AO入学者入学前学習指導」】
	[1-4] 学科内で学生の修学状況や進路希望などについて情報を交換するとともに、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等について情報を共有する。修学状況の把握に際しては、「はぐくみ」を活用する。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。学科内で学生の修学状況や進路希望、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等について情報を共有した。修学状況の把握に「はぐくみ」を一部の教員が活用した。	対処を2/3実施。検証を0/2を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-1:学生の成長過程と学修成果より検証・共有化】 【指標③】 【指標②進路決定状況】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】
2016年度	年次計画内容		



5. 学生の受け入れ

年度	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示する。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課す。
	[1-2] 障がいのある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める。
	[1-3] 修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに、適宜関係部署と連携しながら修学支援の内容を考えていく。
	[1-4] 学科内で学生の修学状況や進路希望などについて情報を交換するとともに、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等についても学科会議などで情報を共有する。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	【2-1、2-2 共通】 ①入学定員充足率 ②収容定員充足率	
[2-2]	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。		
[2-3]	募集人員の適切性を検証する。		
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 数年にわたる入学者定員の変化を集計、分析し、適正比率を検証していく。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。数年にわたる入学者定員の変化を集計し、入学者増加のための対策として高校訪問を強化する対策を考えた。	対処を2/2実施。検証を1/1を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-2:収容定員と在籍学生比率の適切性の検証】 【指標①②③】
	[2-2] 2年にわたる入学者の減少と休退学者の原因分析をして、未充足への対応を考える。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。2年にわたる入学者の減少と休退学者の原因分析をして、未充足への対応を考えた。	対処を2/2実施。検証を0/1を実施。達成0/1を実施。 【指標「計画表」D5-2:過剰・未充足に関する対応】 【指標①②③】
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を検証する。	本目標を対処、検証、達成に分けて達成度をチェックする計画を立てた。学部学科の再編に向けて着手した。	対処を1/1実施。検証を1/1を実施。達成0/1を実施。  【指標「計画表」D5-2:募集人員の適切性を検証】 【指標①②③】
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 数年にわたる入学定員の変化を集計、分析し、適正比率を検証していく。		
	[2-2] 3年続きで入学定員を割り込む状況について分析し、未充足への対応を考える。		
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を検証する。		

(9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	【1-1】 ①入試要項、履修要項での記載、ホームページでの公開実績 【1-2】 ①入学年度別学位授与率・4年間卒業率 ②進路決定状況 ③GPA分布 ④資格等取得状況 ⑤法学検定試験ベーシックコースの合格状況 ⑥ボランティア活動への参加状況 【1-3】 ①学年度別学位授与率・4年間卒業率 ②GPA分布	
[1-2]	学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのか検証する。		
[1-3]	入試制度の区分に応じた学生の成長を把握し、入試制度の検討を行う。		
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 求める学生像および、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項などで明示する。	入試要項、履修要項ともに学部の教育目標や各種ポリシーを明記している。ホームページではこれらを高校生にわかりやすく説明している。	入試要項、履修要項、 <a href="http://www.sgu.ac.jp/law/">http://www.sgu.ac.jp/law/</a> で公開した。
	[1-2] 学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、入学年度別学位授与率・4年間卒業率、進路決定状況、GPA分布などの指標を通じて検証する。	新カリキュラムの本格化を迎え、法学検定ベーシックに一定数の合格者を出した。その他、FPや知財で資格取得者を出しており、学生の成長が多角的に確認できた。卒業率は例年を維持した。	資格取得者表彰10名、法学検定ベーシック合格37名、就職率84.6%(2月時点)、公務員合格21名など。
	[1-3] 入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4年間卒業率、GPA分布を通じて把握し、入試制度を検証する。	トップアップクラスやAO入試入学者を中心としたクラスなど実験的な性格を伴ったクラス編成をおこなった学年が3年生という勉強盛りの時期にあたり、この学年では公務員志望者や資格取得者、さらにはボランティア・地域貢献を目指す者など多様な学生が育まれている。入試制度とのさらなる連携を今後強めたい。	2015年度の卒業対象者卒業率90.5%、4年間での卒業率80.6%、いずれも前年より持ち直した。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。		
	[1-2] 学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4年間卒業率、		

進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。
[1-3] 入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。		[2-1,2-2 共通]	
[2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。		①入学定員充足率	
		②収容定員充足率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 入学定員充足率をもって、収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	2014年度入学生数を底にして入学者数は改善傾向にあり、今後、収容定員充足率も上向くことが見込まれる。入学定員を減らした効果が今後出てくると思われる。	2014年度の充足率は38%、2015年度の充足率は67%である。実質15%向上した。 ※2014年度迄の定員は200名、2015年度より150名
	[2-2] 収容定員充足率をもって、定員に対する在籍学生数の過剰・未充足を検証し対処する。	公務員養成を核とした志願者増加政策が少しずつではあるが結果に現れつつあり、引き続き入学者確保に全力を尽くしているところである。	2015年度入学者は実数で26名増加した。
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 入学定員充足率をもって、収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。		
	[2-2] 収容定員充足率をもって、定員に対する在籍学生数の過不足を検証する。		

## (10) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] もとめる学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。		[1-1,]	
[1-2] 入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から不断に検証する。		①入学案内・ホームページでの公開	
		[1-2]	
		①単位修得状況	
		②GPA 分布	
		③資格等取得状況	
		④学位授与率	
		⑤修了生進路状況	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準について検討する。	[1-1] 求める学生像についてはアドミッション・ポリシーに既に明示されているとおりでよしとする。入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準については、本研究科運営会議で検討を行ったが、結論には至らなかった。	①アドミッション・ポリシーについては、入学案内・ホームページ等で公開済。
	[1-2] ①個人情報保護の観点から面接試験の形態を個別面接に変更する。 ②公平性・適切性の観点から改善すべき点がないか検討する。	[1-2] ①個人情報保護の観点から面接試験の形態を個別面接に変更した。それに伴い、Ⅱ期入試の受験者は10名であったため面接に多大な時間を要した。 ②入学者選抜方法について、公平性の観点から採点方法に一定の工夫を導入した。	
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。		
	[1-2] 2015年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を不断に検証する。		[2-1,2-2 共通]	
[2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。		①入学定員充足率	
		②収容定員充足率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努めたが、1名の税法担当教員の指導できる人数には限界があるため、合格者数を抑制せざるをえなかった。	①2015年度入学定員充足率→47% ②2015年度収容定員充足率→67%
	[2-2] 適切な範囲に収まらない場合には対応策を検討する。	[2-2] 定員と入学者の乖離が大きい場合の対応策としては、(1)受験者の多い税法の教員を2名体制に戻すか、それが無理なら(2)入学定員を10名に減員するか、このいずれかが考えられよう。	
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 2015年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。		
	[2-2] 定員と入学者数の開きが大きい場合、大学院のあり方も含め、適切な定員数を検討する。		

5. 学生の受け入れ

(11) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 一般入試ならびに社会人入試(一期、二期)、学内特別選抜入試の制度と内容について運営会議における検討を継続する。 [1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		[1-1,1-2に共通] ①受験者数、合格者数リスト	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。	計画に沿って遂行した。 入試状況は研究委員会にて報告され、研究科運営委員会において、制度・方法・状況についての検討を継続した。専門試験を含む筆記試験は試験毎に難易度に変動があるため、さらなる検討が必要とされた。	① 達成
	[1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。	計画に沿って遂行した。 学外での大学院説明会の出席者数が低迷していることが指摘され、大学説明会についての広報体制に問題があることが指摘された。	② 達成
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。		
	[1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 入学定員に対して超過・不足に至らないように配慮する。 [2-2] 社会人の入学を促進するために必要な授業料減額について検討する。		[2-1] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-2] ①他研究科との授業料の対比	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 入試の状況と、超過・不足の状況を把握する。	計画に沿って遂行した。 各入試実施後に研究委員会において状況が報告され議論された。なお、臨床心理士養成指定大学院としては収容定員維持とともに臨床心理士足る資質の維持が重要であることが指摘された。	① 実施 ② 実施
	[2-2] 他研究科との授業料の格差の説明を求める。	計画に沿って遂行した。 学長が議長である大学運営会議ならびに大学協議会において、研究科長及び人文学部長から格差の指摘がなされた。	① 実施
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 入試の状況と、超過・不足の状況を把握する。		
	[2-2] 他研究科との授業料の格差の説明を求める。		

(12) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。		[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①院生アンケート ②資格等取得状況	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める学生像、習得しておくべき知識などを明示する。	入試案内パンフレットに教育目標などの説明がある。大学院の説明会等でどのような人材を育てるかを説明した。	入試案内パンフレットにアドミッションポリシーを掲載している。ホームページでも公開している。
	[1-2] 障害のある学生の受け入れ方針を検討する。	障害のある志願者がまだいないこともあり、受け入れ方針の検討はできなかった。	
	[1-3] 修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた学生の成長の度合いを検証する。	修士論文において学生の成長の跡が見られる。	①アンケートを行った。 ②昨年度修了生1名が税理士に合格した。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める学生像、習得しておくべき知識などを明示する。		
	[1-2] 障害のある学生の受け入れ方針を検討する。		
	[1-3] 修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた学生の成長の度合いを検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員の見直しやカリキュラムの見直しの検討、広報活動を通じて定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応を行う。		[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況

年度	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証し、定員の見直しを検討する。	定員の見直しはカリキュラムの見直しと連動するものであり、来年度のカリキュラムの見直しと同時に検討する。	①今年度の入学定員充足率 10% ②今年度の収容定員充足率 17.5%
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直し、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・地方自治体やJC等各種団体へのPR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせてPRを行う。 ・専修免許状の取得を目指す近郊の高校教員に向けてPRを行う。	大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直しなどを行い、志願者を5名に増加させた。ただ定員に比べて十分な数とはいえない。今後、定員の見直しの必要がある。	①今年度の入学定員充足率 10% ②今年度の収容定員充足率 17.5%
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証した上で、カリキュラムの見直しと同時に定員の見直しを検討する。		
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直し、リーフレットの作成、パンフレットの配布先の拡大など広報活動の強化を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・地方自治体やJC等各種団体へのPR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせてPRを行う。 ・専修免許状の取得を目指す近郊の高校教員に向けてPRを行う。		